

サービスラーニングで学んだこと

活動先：NPO 法人 絆
クラス：村上 徹也 先生

1. 自分の成長と気づき

この1年間サービスラーニングのことについて学んできて、夏休み活動先でお祭りを企画・運営をしてきて、自分が成長できたと思うことはたくさんあった。春に顔合わせで初めて活動先に訪問したときには緊張をしていて、利用者さんとも会ったのですが、ほとんど何も話すことが出来ず、代表の方に自分たちの活動の目的を伝えるので精一杯で、同じ活動先の万場さんともほとんど喋ったことが無かったのでお互いこれからの活動をどうしていくかしっかり考えておらず、活動内容が決まったときはこれで大丈夫なのだろうかという、印象だった。

それから、授業を重ねていく内に万場さんともコミュニケーションがとれ、お祭りの内容をつめていくようになった。それからは2人で協力しながら、準備を進めていき、お互い職員の方や利用者さんとも話せていけるようになり、自分の意見を伝えられるようになり、地域のお店や役場にお祭りの宣伝のためにポスター・チラシを持っていき、自分たちがどのような思いで、お祭りを開催しようとしているのかを伝え、協力してもらえるようになった。

人と話すのがそれほど得意ではなく、自分の意見を伝えるのが苦手だったが、コミュニケーション能力があがり、誰とでも話すことができるようになり、お祭り本番でも、地域のお客さんともたくさん話すことができ、たくさんの方に NPO 法人絆の理念を伝えることができた。

そして、このお祭りの企画を提案してから、学生2人で内容や構成を考え、ほとんど決めたので、計画をたてて、それを実行する力を得ることが出来た。地域の方に絆の理念を知ってもらい絆と地域の人との距離を縮めることを目的のためのお祭りだったので、どんな作業をしているときもこの目的にふりかえって、目的からずれた企画・運営が起きないようにと代表の方から、教えられ、計画を立ち上げる際にはとても重要なことだと学ぶことができた。それからはどんなときでもこの目的を頭に入れながら、行動し、お祭り当日もこの目的を達成するために行動、呼びかけができたと思う。

そして、この企画を運営して一番自分が成長できたと思うことは人をまとめる力です。お祭り前日と当日に大学の友人がボランティアで6人、太鼓の演奏のために手伝いに来てくれた友人が2人きてくれ、その人たちに指示をするのも自分たちの仕事だったので、自分たちの作業をしながら、他の人に仕事を与えるために考え、6人全員の動きも考えながら指示するのは大変であり、途中指示が通らず、作業ができなくなったが、万場さんと協力をして準備を進め、お祭り当日に備えることができた。

当日は自分が太鼓演奏をしていたので、あまり運営に携わることができなかったが、時間を見つけ、ゲームコーナーの見回りや食べ物コーナーで販売の手伝いをした。よって自

分の作業をしながら全体を見て動くということができ、考えを整理し冷静に行動、運営することができたと思う。自分はこのサービラーニングで自分の考えを伝え、実行に移し、計画通りに動くという力を身につけることができ、この力はこれから、勉強していくうえでも計画性を学んだので、計画通りに学びが出来ていけ、コミュニケーション能力もこれから、実習先で出会う職員や利用者さんと触れ合うときに使え、これからの自分にとって大切な財産になると考える。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

今回の体験では NPO 法人と地域との関係について深く考えさせられました。今回の体験先の NPO 法人絆はまだ新しい場所に移ってから、日が浅く地域との関わりがほとんど無く、何かのきっかけで地域との交流を深めようとしていた。このお祭りで地域との交流を深めることが出来たのである。このようにこれからの NPO 法人の活動には地域福祉との関わりは必要不可欠であると自分は考える。地域とどのような関係を持っているかで、何かあったときに地域の人たちに助けを求めることができる。そのためには、地域との関係を持つため、地域のお祭りに職員が参加し、地域の事業に参加することにより、信頼関係を深めていかなければならないと思う。NPO 法人絆もこれをきっかけに地域のなかで生きる施設にしていかなければならないのである。

